

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401500		
法人名	有限会社春陽		
事業所名	グループホーム福田		
所在地	長崎県諫早市福田町3346番地5		
自己評価作成日	令和 4年 10月 15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年1月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとその人らしさを大切に の理念を基に、一人一人に合わせたケアを行い、穏やかに安心して毎日を過ごせる様な環境作りに日々努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは諫早市の閑静な住宅地に立地し、周囲には他法人の福祉施設が立ち並んでいる。職員は、理念である『ゆったりとその人らしさを大切に』を念頭に、入居者それぞれのペースに合わせたケアを実践している。ホームとして自治会に加入し、職員が年2回の地域清掃にも参加していることから、地域にホームの存在が認知され、介護の相談を受けるなど、地域住民との繋がりは良好である。ホームの方針として入居者の終末期の支援を行い、看取りの際には複数の職員でサポートするなど良好なチームワークを形成している。薬局の薬剤師との協力関係も築いており、内服薬の確認や指導なども行われる為、薬の安全な服用と職員のスキルアップに繋がっている。季節の行事の一環として寒い時季には入居者と職員が鍋を一緒に食べる事で自然に会話が弾み全体の笑顔に繋がっている。入居者本位のゆったりとした雰囲気、入居者が穏やかに安心して過ごしている姿が窺えるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を唱和し、職員全員が入居者一人一人の“その人らしさ”を忘れずに日々の業務にあたるようにし、個々を尊重したケアの徹底に努めている。	ホームは『ゆったりと、その人らしさを大切に』の理念のもと、職員が日々の業務の中で入居者を急かしていないか、その人らしさを忘れていないか、を意識しながら実践に努めている。理念を基に、今月は身体拘束について月間の目標を立て、職員同士が注意し合いながらケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事は、夜間や早朝が多く入居者の参加はなかなかできていない。以前はホームの行事に地域の方にも声をかけていたが、最近ではコロナ禍というのがありそれもできていない。	ホームとして自治会に加入している。職員が年2回自治会の地域清掃に参加している。入居者が近隣を散歩する際に挨拶を交すなど、地域にホームの存在が認知されている。近隣の方から野菜の差し入れがあったり、介護の相談を受けるなど、地域との繋がりは良好である。コロナ禍で以前のような交流ができていないこともあり、コロナ禍収束後の地域交流の再開が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との会話の中で、認知症やその他介護についての悩みや相談があった場合は、今までの知識を生かし、助言や事業所としてできることを考え力になれるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍という事もあり現在、ホーム内での開催はできていないが、参加者の方に書面にて事業計画や活動報告を行っており、ご意見もいただいている。	コロナ禍により、運営推進会議は書面会議を中心としている。ホームの2ヶ月分の活動状況を、運営推進会議の委員へ送付し、意見や質問、助言を頂いている。各委員から出された意見等はホームで検討し、次回の運営推進会議の資料と一緒に意見等へ回答した文書を送付している。	運営推進会議録は委員や家族代表者へ送付している。また、ホーム内でも閲覧できるようにしている。尚、コロナ禍で家族等の面会制限を実施することもあり、例えば、会議記録はいつでも閲覧できることをあらためて周知したり、議事録が必要な家族には配布することを伝えるなど検討し、入居者家族へ周知することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当の方にも参加していただいていたが、上記の通り現在来所してもらえていないため、困ったことわからない事などはその都度連絡確認を行うようにしている。	市へ毎月ホームの空床状況や待機情報を書面で送付している。管理者は日頃の相談事などを電話や窓口で行い、担当者との協力関係を構築している。市主催の研修会の案内が随時届いており、職員は交代で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束ゼロ委員会を設置しており、会議の際には、職員全員で日頃のケアの中に身体拘束にあたるものがないかを考え、日々のケアに生かしている。	ホームの身体拘束に関する取り組みについて、月間目標に掲げ、スピーチロックなど職員同士が互いに声を掛け合いながら身体拘束を行わないケアの実践に努めている。定期的に身体拘束に関する研修会を開催し、スキルアップに繋げながら職員の意識づけを図っている。今後、虐待防止の指針等を整備することが望ましい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、その内容を他の職員に周知したうえで、委員会を開催し、月間目標を決め虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し、必要な場合は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかりと説明を行い理解を得られても、家族の意向が変化する場合がある為、十分に説明を行っている。また、改定の場合にはすべてのご家族に説明・同意をもらい納得された上に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状では、意見や要望はないが、意見箱を設置し何かあれば記入してもらおう様に声掛けしている。	玄関には意見箱を設置している。コロナ禍により家族等との面会は玄関で行い、家族が面会や利用料の支払いに来所した際に入居者の様子を知らせ、意見を聴くようにしている。情報の一元化とトラブルの防止の為、原則として家族とのやり取りは管理者が行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションをとり、意見や提案などをしやすい環境にしており、会議や朝礼などで集まる際に意見を聞き出すようにしている。	職員との個別面談など、管理者とあらかじめ相談する機会は設けていないが、相談しやすい雰囲気があり、職員は日頃の業務の中や会議などを通じてその都度意見や相談が行える環境である。職員の資格取得などキャリアアップへの支援体制を整備し、希望休の取得の配慮や資格取得の費用負担なども行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も職員と同様のシフトに入り、職員の勤務状況や職場環境を把握し、会議や個別に話し合いを行い、各自のやりがいや向上心につながる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の参加を呼びかけ、多くの職員が参加できるような体制を作っている。職員個人個人の得意分野や勉強したいことを把握し能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し、他の事業所との交流を持てるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査時に本人の状態把握を行い、本人からの意見や要望、不安な事などを聞き出せるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や訪問調査時に家族の意見や要望、不安な事等を聞き、理解をし一緒に今後のことを考えて行くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は当ホームの利用以外のサービスの利用も頭に置き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が“第二の家族”という考えを持ち入居者に寄り添い手伝ってもらえることは手伝ってもらい、一緒にできることは一緒に行い、日々和やかに生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の関係を理解し、ホームの行事等への参加の声掛けを行い一緒に過ごせる時間を設けられるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者一人一人の今までの生活をできるだけ把握し、面会や外出の機会を絶やさぬように努めている。	コロナ禍により入居者の友人など馴染みの方との面会は玄関先で行っている。家族等との手紙のやり取りなども支援している。コロナ禍前は入居者が正月に帰省したり墓参りなど馴染みの場所に行けるよう支援していた。管理者はコロナ収束後に再開する方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時以外にも同じ空間で入居者全員と一緒に過ごす時間を設け(午前の体操や午後のおやつなど)、入居者同士が顔なじみの関係となれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取り、必要に応じて相談に乗ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等から入居者一人一人の暮らし方への思い等を把握する様努めている。	職員は入居者が居室にいる時や、入浴時など、入居者と個別に会話できる環境の中で思いや意向を把握している。把握した情報は個人記録に残して申し送りなどで職員全員と共有を図っている。困難な方には家族にも確認しながら新たな情報の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に家族から話を聞き、入居者との会話でも情報を得ている。また、記録に残し把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日々入居者一人一人の状態・行動などを観察し、小さなことまで見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや課題を一緒に考え目標設定を行い、家族に説明・同意を行い、今後の希望などを聞き出せるように努めその人に合った介護計画の作成に努めている。	職員は入居者の担当制を採用し、担当職員が毎月モニタリング・評価を行っている。計画作成担当者は毎月の評価をもとに職員と相談しながら介護計画を立案している。立案した介護計画は職員が各自で確認し、介護計画の内容に基づいたケアの実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態をよく観察し、小さな変化も見逃さず記録に残し、職員間で共有するようにしている。1か月ごとに入居者一人一人の“月のまとめ”を行い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時の宿泊などその時に生じるニーズにできる限り柔軟に対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署や警察署から理解を得ている。ホームの近隣の方々とも顔なじみの関係を築けており協力を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を利用してもらい、そのかかりつけ医と報告・連絡・相談を密にし情報共有を行い、心身の変化や、異常時にも適切な医療を受けられるようにしている。	ホームは入居前のかかりつけ医を継続することができる。受診時は職員が付き添い、必要時には家族にも受診に同行するよう依頼している。薬局の薬剤師と協力関係を築き、内服薬の確認や指導なども行われており、薬の安全な服用と職員のスキルアップに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤務している看護師に状態を理解してもらい、介護職員からの小さな気づきでも報告相談を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と情報交換・共有を行い、早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、本人や家族と話し合いを行い共有し、急変時や緊急時の対応を近隣にも説明させていただきその際の協力について了承いただいている。	看取りの指針を整備し、入居者の看取りが必要になった場合には職員全員が協力し、チームで支援に取り組んでいる。その都度対応方法を細かく設定し、看取りケアを行っている。看取り支援を終了した後は、職員全員で振り返りを行い、職員の精神的ケアを図ると共に更なるケアの充実に向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内での勉強会にて栗菓子勉強しており、職員全員が実践力を身に着けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練や通報訓練、消火訓練を行い、職員だけではなく入居者も避難方法を確認している。その際、消防署や消防設備会社にも立ち合いをお願いし、助言をいただいている。	火災に対する避難訓練とは別に、自然災害に関する避難訓練も実施している。第一避難所が混雑した状況だったと想定し、第二避難所へ移動するなど、より現実的で実用的な訓練の実施に努めている。コロナ禍にて避難訓練に対する地域住民の参加がないが、日頃より協力体制を構築している。	感染症や災害が発生した場合であっても、ホームで必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築することが求められる為、今後、BCP(業務継続計画)の作成、運用に具体的に取り組むことを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人のを理解し、人格を尊重した支援に取り組んでおり、職員の入居者への姿勢や声掛けの仕方などは職員同士でも注意を払いながら対応している。	職員はフロアなどの共用空間で入居者の個人情報に関する話は行わないようにしている。また、介助を行う際にはゆっくりとした口調で声のトーンにも配慮し、同意のもとで介助を行うよう心がけている。ホーム内で定期的に接遇研修を行い、日頃のケアを振り返りながら、よりよいケアを実践できるよう努めている。	居室にポータブルトイレを設置しているが、日中は使用しない場合もある。入居者本人の使い勝手や介護の動線も考慮しながら、日中の保管場所や目隠しなど配慮することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側が決めたことを押し付けるのではなく、本人に選択してもらえるようにわかりやすい言葉を用いたり、話しやすいように日々関係作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大体の1日の流れはあるが、体調や状況に応じ入居者一人一人のペースで過ごしてもらえるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を着てもらい、好みの髪形や希望者にはカラーリングも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	たまにお好み焼きなど入居者の見えるところで焼いたり、冬にはみんなでお鍋をしたりしている。もやしの根切りやお盆拭き、台ふきなどできる範囲で準備や片づけを手伝ってもらっている。食事の際は入居者と職員が同じテーブルにつき楽しい食事になるよう心掛けている。	食事の献立は管理栄養士が作成し、ホームで手作り料理を提供している。入居者の希望や食材に合わせて、献立内容を変更する場合もある。誕生日や催しの際にはイベント食も提供しており、入居者及び職員が同じ鍋料理を一緒に食べる事で自然に会話が弾みホーム全体の笑顔に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は常に把握している。栄養士を中心に栄養管理にも努めている。食事形態も個々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者皆に口腔ケアを働きかけ、自分では不十分な方は介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやタイミング、入居者の行動を把握し、必要な方には声掛けやトイレ誘導を行っている。日中と夜間、その日の状態によって、下着やパッドの使用など使い分けも行っている。	入居者に対し定期的に声掛けや排泄の誘導を行っている。個人の排泄パターンやタイミングを見ながら排泄状況を確認し記録に残している。必要に応じて使用具を検討するなど、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操で体を動かしてもらい、食事は栄養士指示のもと便通に良い食物を取り入れ、水分もしっかりとってもらえるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の要望を取り入れながら、柚子風呂や菖蒲湯なども楽しんでもらっている。	入浴は週3回を基本とし、入浴を拒否した場合には時間や日にち、職員を変えて声掛けするなど工夫している。季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯にしたり、入居者の希望に応じて入浴剤を使用するなど入浴を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には皆さん自室に戻られお昼寝をされたりテレビを見たりゆっくりされている。昼夜逆転しないよう考慮し、日中の活動量を考え夜はゆっくり休んでもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の説明書は個人ファイルに綴じ、スタッフ全員が確認できるようにしている。通院した際は通院記録に記載し、処方の変更などがあつて場合は職員全員に情報伝達行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活や趣味などを把握・理解し、その人に合ったホームでの役割、楽しみを尊重し日々を楽しく過ごしてもらえるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態や希望に応じできる限り戸外へ行けるように努めている。	コロナ禍により外出は自粛傾向にあるが、花見に出かけたり、病院受診の帰りに遠回りしてドライブするなど、ホームに閉じ込められないよう配慮している。管理者は、コロナ収束後には以前のように買い物に出かけたり、家族との外出が楽しめるような支援を行う方針である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為高額な金額は所持して頂かないようにしている。お小遣い程度の金額は自由に所持されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来るように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りや写真などを飾り、心地の良い空間を目指している。不快感や混乱を招かないよう配慮している。	共用空間は毎日掃除機やモップにて清掃し、清潔を保っている。壁面には入居者と一緒に作成した季節の飾りつけを行い、室内でも季節を感じる事ができる。定期的な消毒と換気を実施し、オゾン発生器を3台設置するなど、感染対策にも留意し、入居者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや廊下の椅子など自由に過ごしていただける空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人や家族と相談できる限り今まで使っていた家具や写真などを部屋においてもらい、心地よく過ごしてもらえるよう環境づくりを行っている。	居室は毎日清掃と換気、消毒を行い、清潔を保っている。居室へ火気類以外の持ち込みは自由である。家具や家族の写真など馴染みの物が持ち込まれており、備品類は入居者の好みに合わせて配置するなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口やトイレなどは分かりやすく表示し、必要な場所には手すりの設置も行っている。		